

個人・世帯・地域が抱える課題の解決に向けて ～PDCAサイクル展開の現状・課題と埼玉県立大学の取組み～

（内容）

1. マネジメント関係者に期待される役割・機能と小職の問題意識
2. マネジメントの基本構造とその展開手順
3. ケアマネジメントの現状・課題
4. 市町村の事業マネジメントの現状・課題と当大学の取組
5. 地域課題解決に向けた当大学の取組
6. マネジメント力の強化に向けた私見

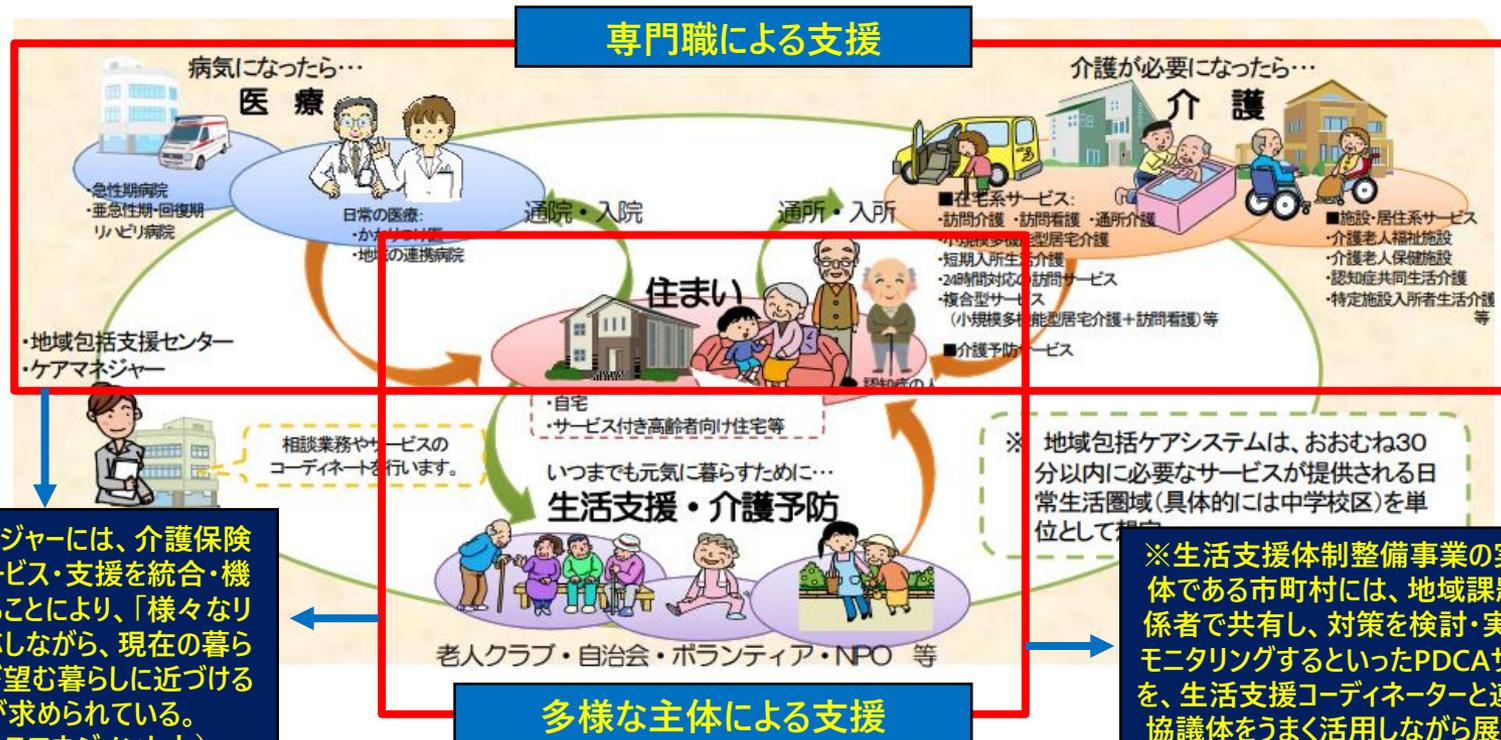
埼玉県立大学大学院／研究開発センター 川越雅弘
kawagoe-masahiro@spu.ac.jp

1. マネジメント関係者に期待される役割・機能と 小職の問題意識

—個人・世帯・地域の課題解決に向けて—

地域包括ケアシステムの「目的」とマネジメント関係者に期待される役割 (多職種・多主体による支援を統合し、現在の暮らしを本人が望む暮らしに近づけること)

- 地域包括ケアシステムの目的は、「**認知症や重度の要介護者になったとしても、住み慣れた自宅や地域で、本人が望む暮らしが続けられるようにする**」こと。
- ただし、これを実現するためには、「**専門職による支援**」と「**多様な主体による支援**」を統合し、**機能化させる**必要がある。それを担うのが、ケアマネジャーであり、各種事業関係者(及び行政からの委託先)となる。
- 本人・世帯・地域が抱える課題を解決するためには、これら関係者のマネジメント力強化が必須となる。そのために、厚生労働省も様々な対策を講じているが、PDCAの展開力にはまだまだ課題が多い。

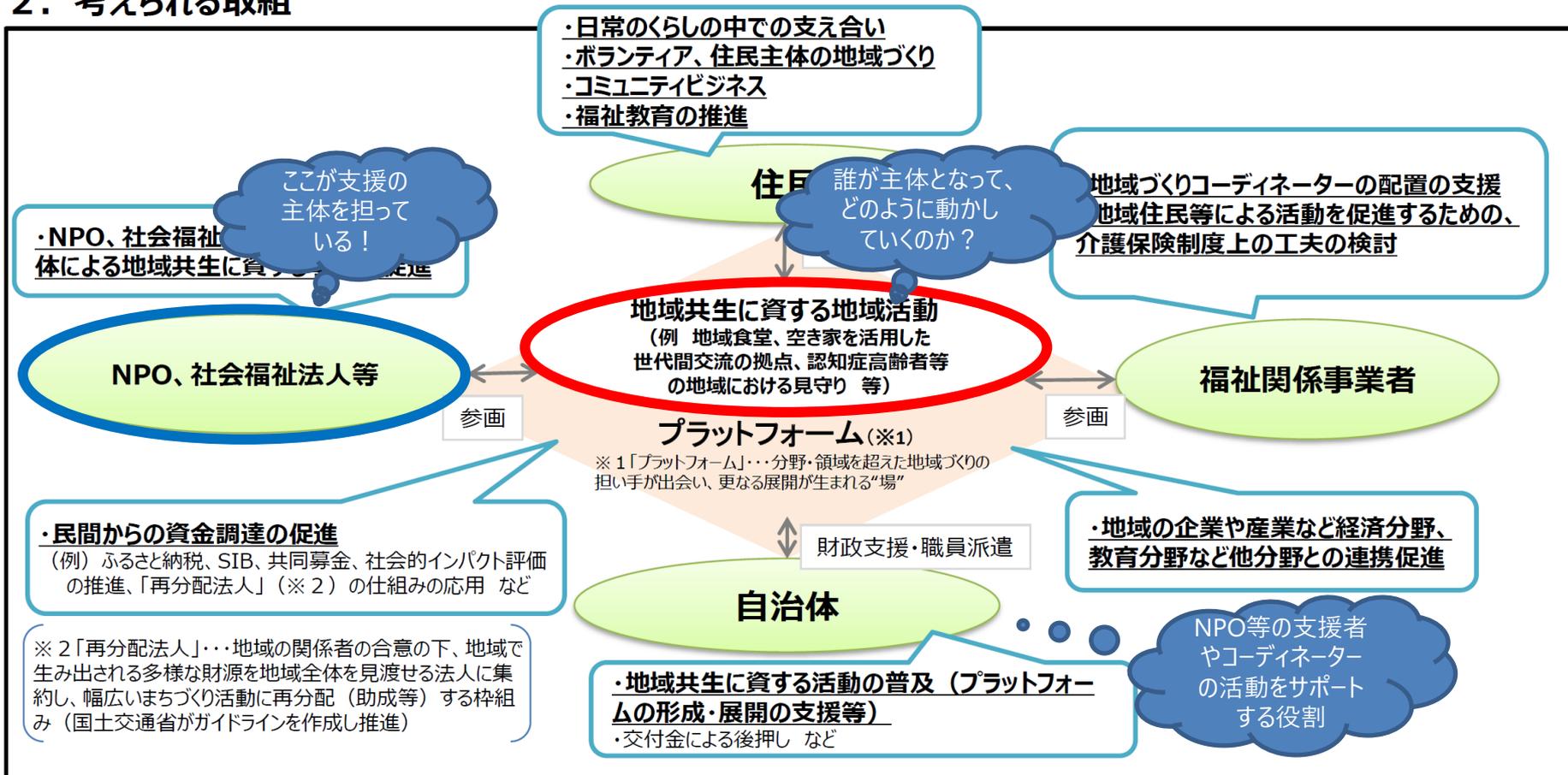


厚労省が目指す「多様な担い手の参画による地域共生に資する地域活動の普及促進」と、実現する上でのマネジメント面からみた課題

1. 概要

- 地域における重層的なセーフティネットを確保していく観点から、住民をはじめ多様な主体の参画による地域共生に資する地域活動を普及・促進。
- 地域共生に資する地域活動の多様性を踏まえ、住民などの自主性や創意工夫が最大限活かされるよう、画一的な基準は設けず、各主体に対し積極的な活動への参画を促す方策など環境整備を推進。

2. 考えられる取組



参考) 現在の主な業務について (地域包括ケア/地域づくり関連)

主な職歴

- 1987.4～ 民間企業勤務 (川崎製鉄、帝人、経営総合研究所)
- 1997.12～ 日本医師会総合政策研究機構 (最終: 主席研究員)
- 2005.11～ 国立社会保障・人口問題研究所 (最終: 社会保障基礎理論研究部 部長)
- 2017.4～ 埼玉県立大学大学院/研究開発センター 教授 (現職)

厚労省関連(R4年度)

- 【厚労省】社会保障審議会介護給付費分科会専門委員/介護報酬改定検証・研究委員会委員/厚生局参与
- 【老健局】1_在宅医療・介護連携推進支援事業検討委員会_委員長
- 【老健局】2_地域づくり加速化事業_オブザーバー
- 【老健事業】1_地域包括ケアシステムの構築状況の見える化に向けた調査研究事業_委員長
- 【老健事業】2_介護職員数の将来推計ワークシートの作成に関する調査研究事業_委員長
- 【老健事業】3_生活期リハビリテーションにおける適切な評価の在り方に関する調査研究事業_委員

自治体への主な支援

- 埼玉県: 埼玉糖尿病対策推進会議医療費抑制効果推計業務_委員
- 島根県: 島根県老人福祉計画・介護保険事業支援計画策定委員会_委員長
- 北本市: 第9期介護保険事業計画策定業務(一般公募で受託)
- 川越市: 介護保険事業計画等審議会_委員
- 草加市: 社会福祉審議会_会長/地域包括支援センター等運営協議会_委員
- 北本市/草加市社協: 地域福祉事業に関するアドバイザー

地域課題・資源の把握/ネットワーク化/プロジェクト推進

- 地域包括ケア推進セミナーの定期開催 (月1回、毎回2名の講演 + 意見交換会、合計2時間)
- エリアネットワーク会議の定期開催 (月1回、川口市)
- 北本市: 地域共生社会の実現を目指した「ごちゃまぜの会」の企画・運営支援 (ほか)

2. マネジメントの基本構造とその展開手順

課題とは／PDCAサイクルとは

- マネジメントとは「様々な資源を活用して、現状をめざす姿に近づける行為」のこと。
- PDCAサイクルとは、現状をめざす姿に近づけるための継続的な取組の「手順」のこと。

課題と施策と指標の関係性

①めざす姿
(≡目標値)

⑦対策によって、現状がめざす姿にどの程度近づいたかを、何らかの指標を置いて確認し、対策の見直しに活かしていく。

③両者のギャップが「課題」。多数挙がってきた課題の中から、取り組むべき課題（真の課題）を絞り込み、具体化する。

④複数考えられる対策の中から、より効果的な対策を選択するために現状を引き起こしている「要因分析」を行う。

対策の実施

⑤⑥現状をめざす姿に近づけるために「対策」を講じる。

②現状
(≡実績)

PDCAサイクルとは

P

D

C

A

課題設定

1

2

3

保険者としての意志

現状把握

取り組むべき課題の選定

効果的な対策の検討・実施

4

5

6

要因分析

対策立案

対策実行

7

8

効果確認

D.C 継続

データに基づいて現状を把握

3. ケアマネジメントの現状・課題

ーこれまでの支援を通じて感じたことー

【課題①】現状＝課題と捉えていないか？ 課題の所在を具体化しているか？ 課題分析を行っているか(専門職に聞いているか)？

目指す姿(本人の意向)

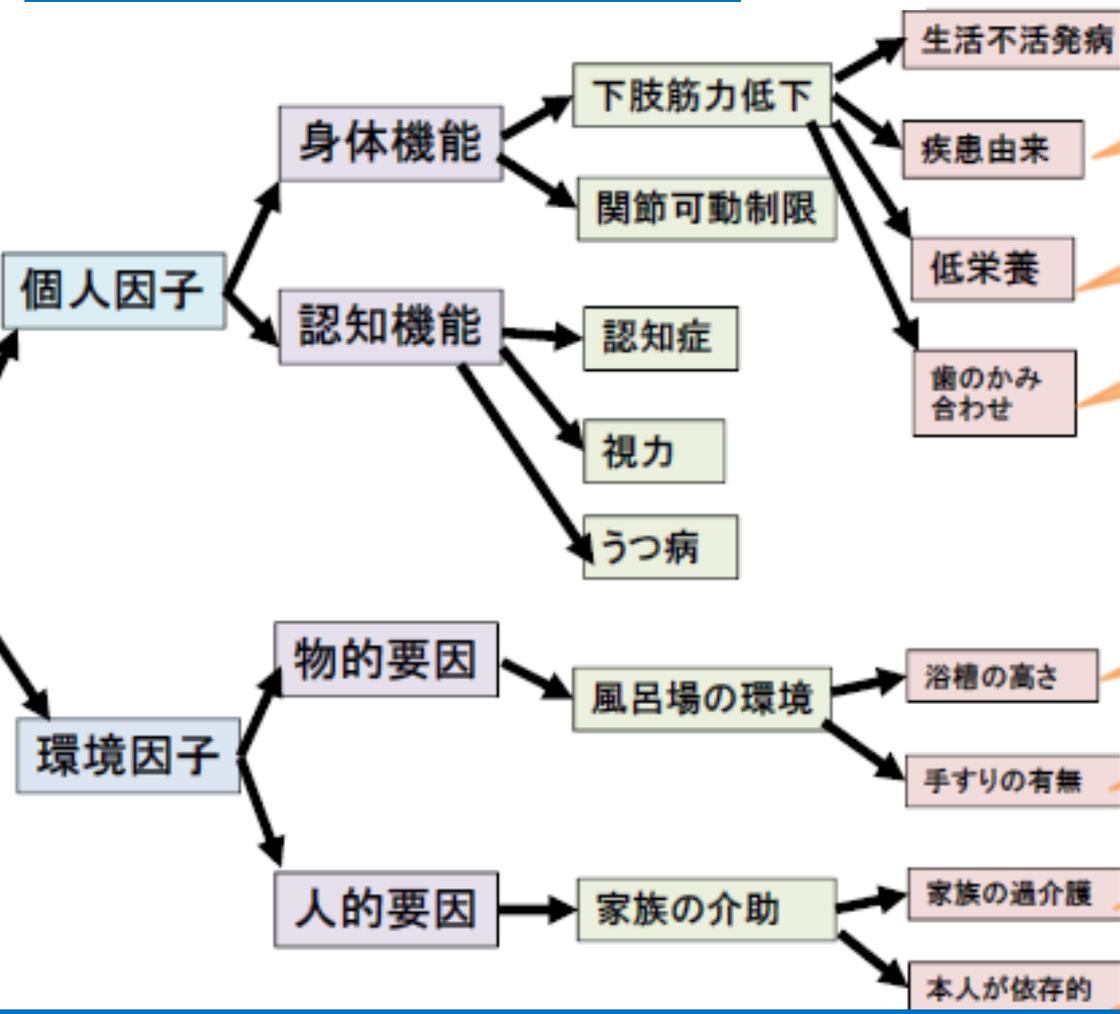
■以前と同じように、好きな時に1人で自宅のお風呂に入ること

現状

自宅で一人で入浴できない(これは現状)

- 課題の絞り込み
- 移動
 - 衣服着脱
 - 浴室移動
 - かけ湯
 - またぎ**
 - 浴槽内姿勢
 - 洗身
 - 洗髪
 - ・
 - ・

課題を生じさせている要因の絞り込み



対策

- 運動機能向上
- 医療との連携
- 栄養改善
- 口腔機能向上
- 福祉用具
- 住宅改修
- 介助方法
- 説明

【課題②】保険サービスと保険外サービスを上手く融合できるような思考展開が身に付いているか？

(現状) ※現状は2人とも同じ

Aさん・Bさん:重いものが運べない。ネット注文はしたことがない。

(本人の望む姿) ※2人の買い物に対する意向、価値観、こだわりは異なる。

Aさん:自分でスーパーまで行って、選んで買いたい。

Bさん:ネットでもよいので、食品を購入できればよい。

(Aさんへの対策)

対策1:必要な能力を高める(例:そのために訪問リハを導入する)。

対策2:買い物の同伴者を募る。

対策3:運送してくれるスーパーを探す。

対策4:移動販売を自地域でも活動してもらうよう依頼する。

(Bさんへの対策)

・ ネットの使い方を教える。できれば、何かあったときに相談できる関係性を築きたい。

(誰が教える?)

・ 携帯会社に教室を開いてもらう

・ 孫/娘・息子 ・**近くの高校の学生**…

1. Aさんへの対策はどれが良いかは、何を期待したかで異なる。

例1)買い物ができるようにしたい(⇒対策1~4のいずれもOK)

例2)地域住民同士が買い物をお互いに支えあうようにしたい(⇒対策2がよい)

2. 住民のニーズは様々。通常は複数の対策を用意する必要がある。

【課題③】よくある課題に対し、「課題解決のためには何をしないといけないのか」がイメージできているか？

(例：誤嚥性肺炎の再発予防と本人の「口から食べたい」という希望の両立)



多職種ミールラウンド、食事観察

- ・食事の環境(机や椅子の高さ等)
- ・食べる姿勢、ペース、一口量
- ・食物の認知機能
- ・食具の種類・使い方、介助法等
- ・食事摂取の状況
- ・食の嗜好

誤嚥しにくい姿勢を確保する



口腔機能評価、頸部聴診等

- ・咀嚼能力
- ・嚥下機能
- ・歯・義歯の状況
- ・口腔保持力
- ・食塊の形成・移動能力
- ・唾液分泌能

食べる機能にあった食形態が提供できるようにする

食べる機能に応じたケア提供を行う



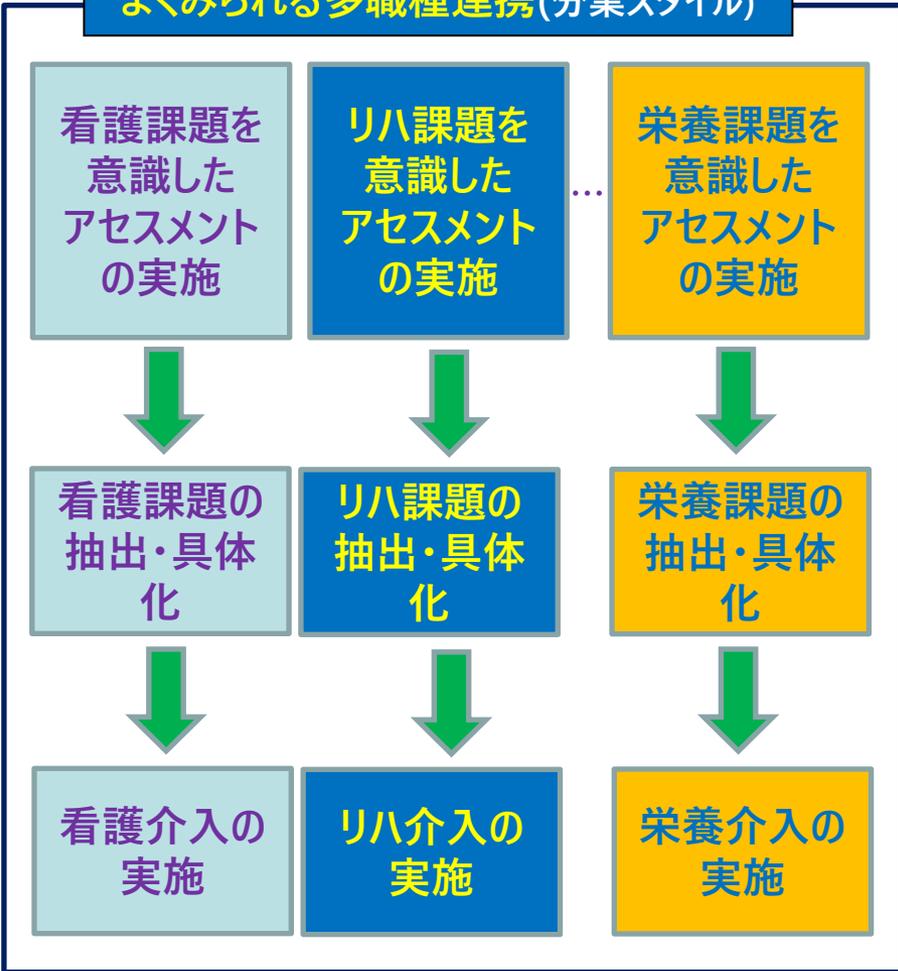
経口維持支援のための多職種カンファレンス

食べる様子を動画で確認しながら、全身状態、栄養状態、咀嚼能力や嚥下機能に応じた、経口維持計画を検討

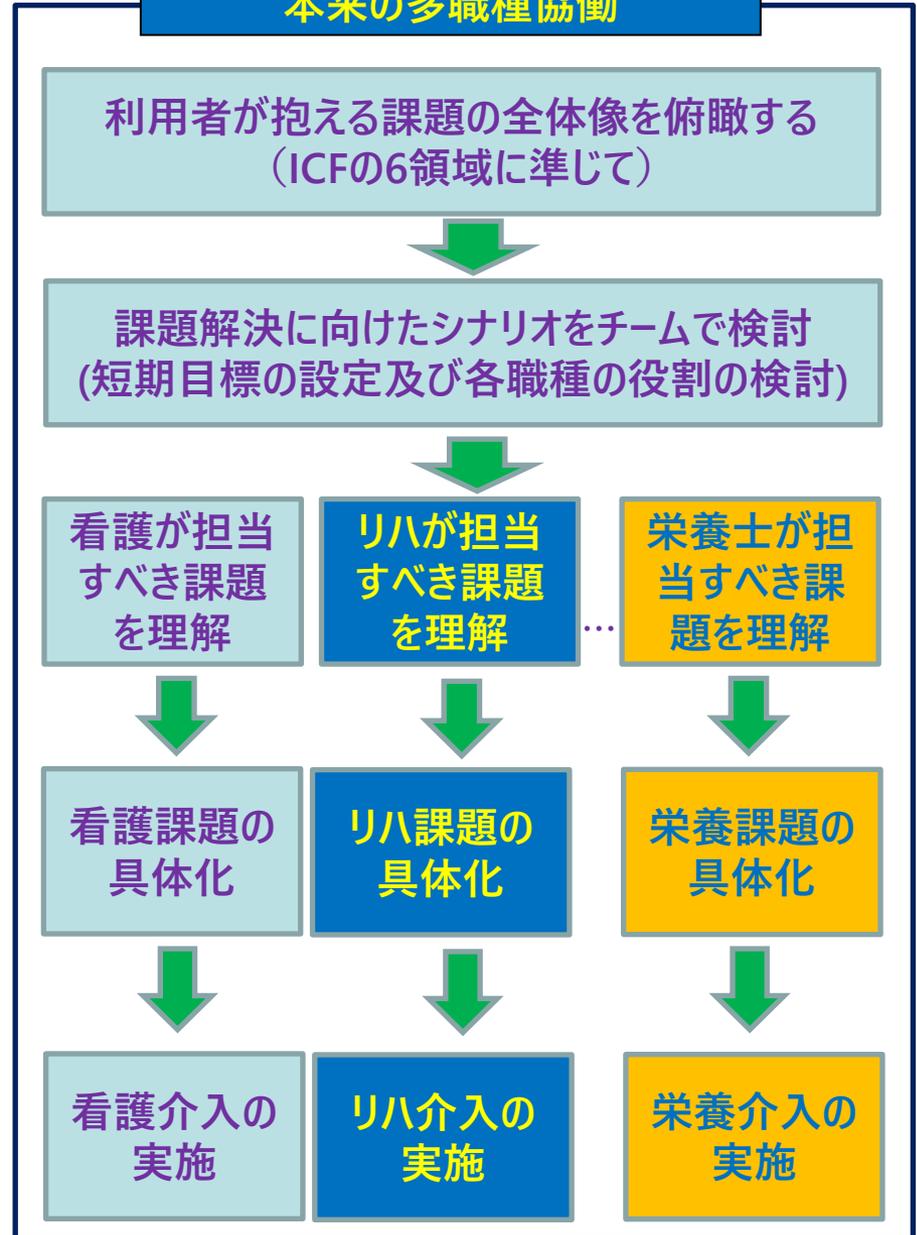
出所) 厚生労働省：施設系サービスの口腔・栄養に関する報酬・基準について(案)、第113回介護給付費分科会(2014年11月6日開催)、資料1を一部修正

【課題④】本人の意向をベースとした多職種協働に誘導できているか？

よくみられる多職種連携(分業スタイル)



本来の多職種協働



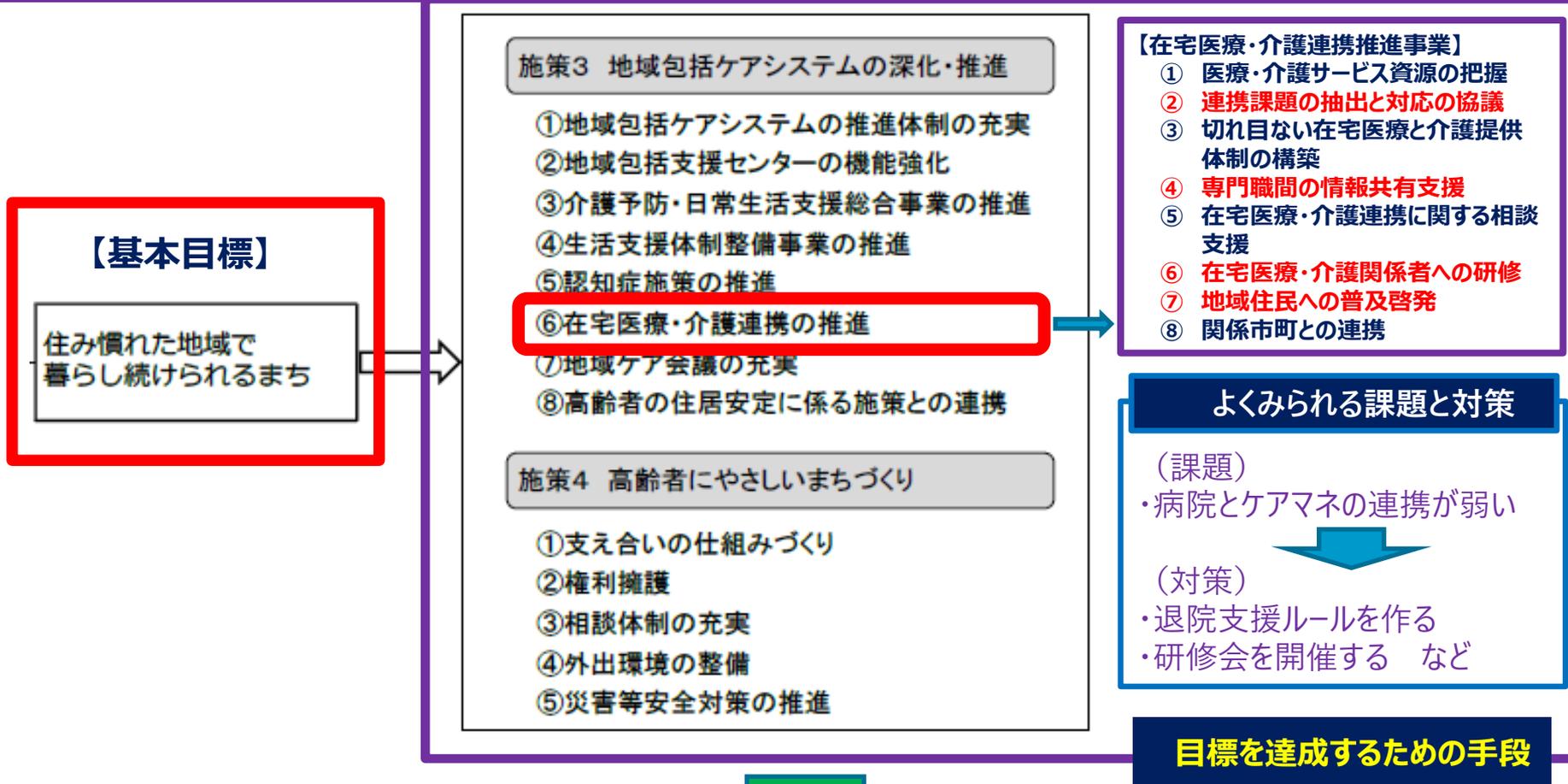
問題点(部分最適化の集合体)

- 課題の関連性や優先順位が十分吟味されないまま、各々の介入が行われる場合がある。

4. 市町村の事業マネジメントの現状・課題と 当大学の取組

事業マネジメントの現状・課題①

(手段の目的化／間違った課題の捉え方／対症療法的アプローチ)



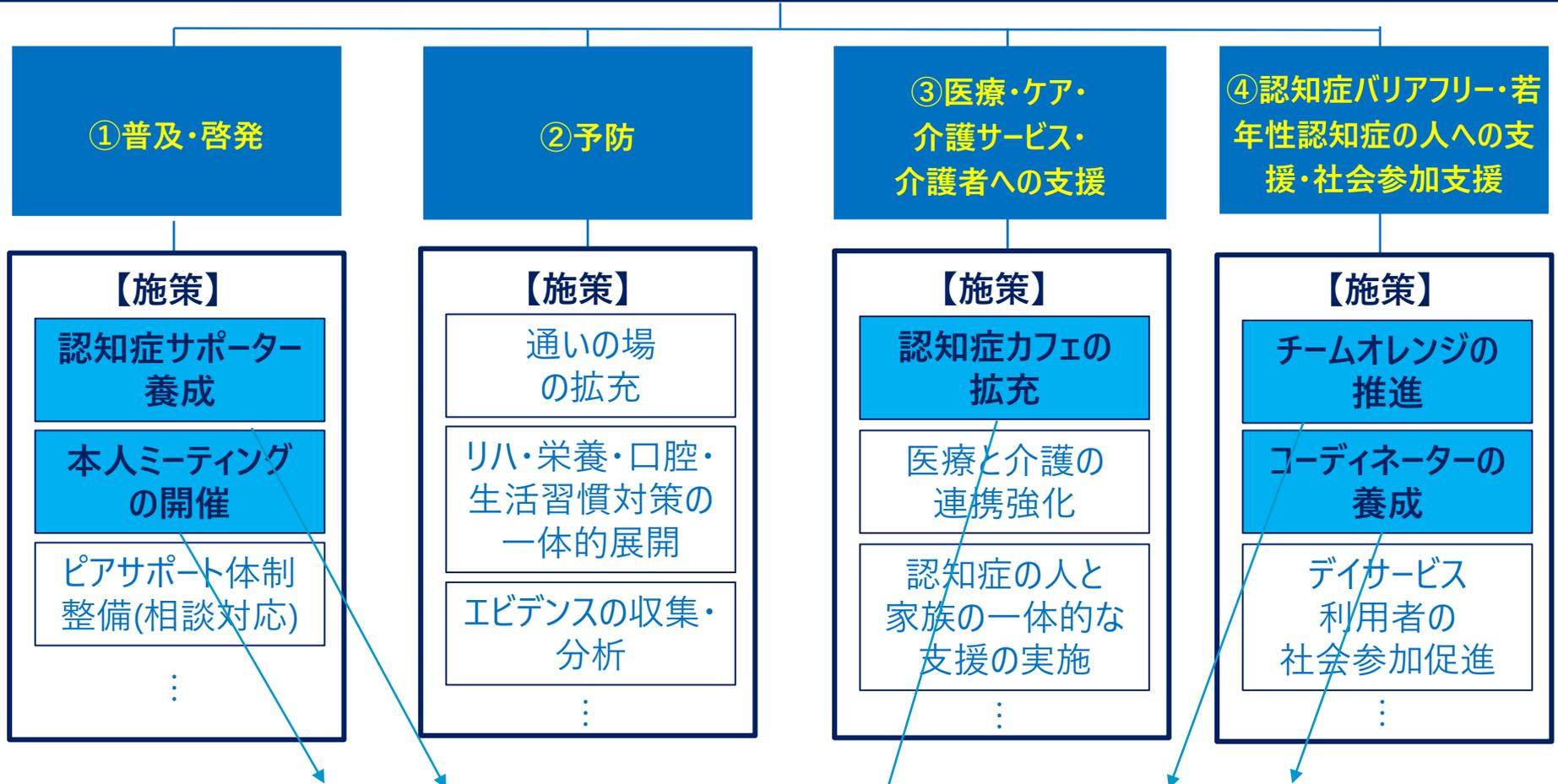
何が問題か (意識・知識・方法)

- 目指す地域の姿を形の上では置いてはいるが、抽象的なままで、**その実現には何が必要かの検討は不十分。**
- 「目指す地域の姿をどのように達成するか」よりも、国から提示された事業や施策を「**どのように展開するか (手段・方法)**」に意識が向いている。
- 効果的対策を講じるためには、病院とケアマネの連携が弱い原因 (どこが弱い? なぜ連携が弱い?) を把握する必要があるが、こうした分析は行われていない。**課題が抽象的なまま、対症療法的な対策が検討されている。**

事業マネジメントの現状・課題②

(各施策の実現に意識が向き、それらをどう組み立てて目的・目標を達成するかの視点が弱い)

【基本理念】 認知症本人と家族が、住み慣れた地域や自宅で、不安なく、今までと同じように暮らし続けられる



<テーマ> チームオレンジとサポーターが連携しながら、認知症本人・家族の個別支援ニーズに応じていく

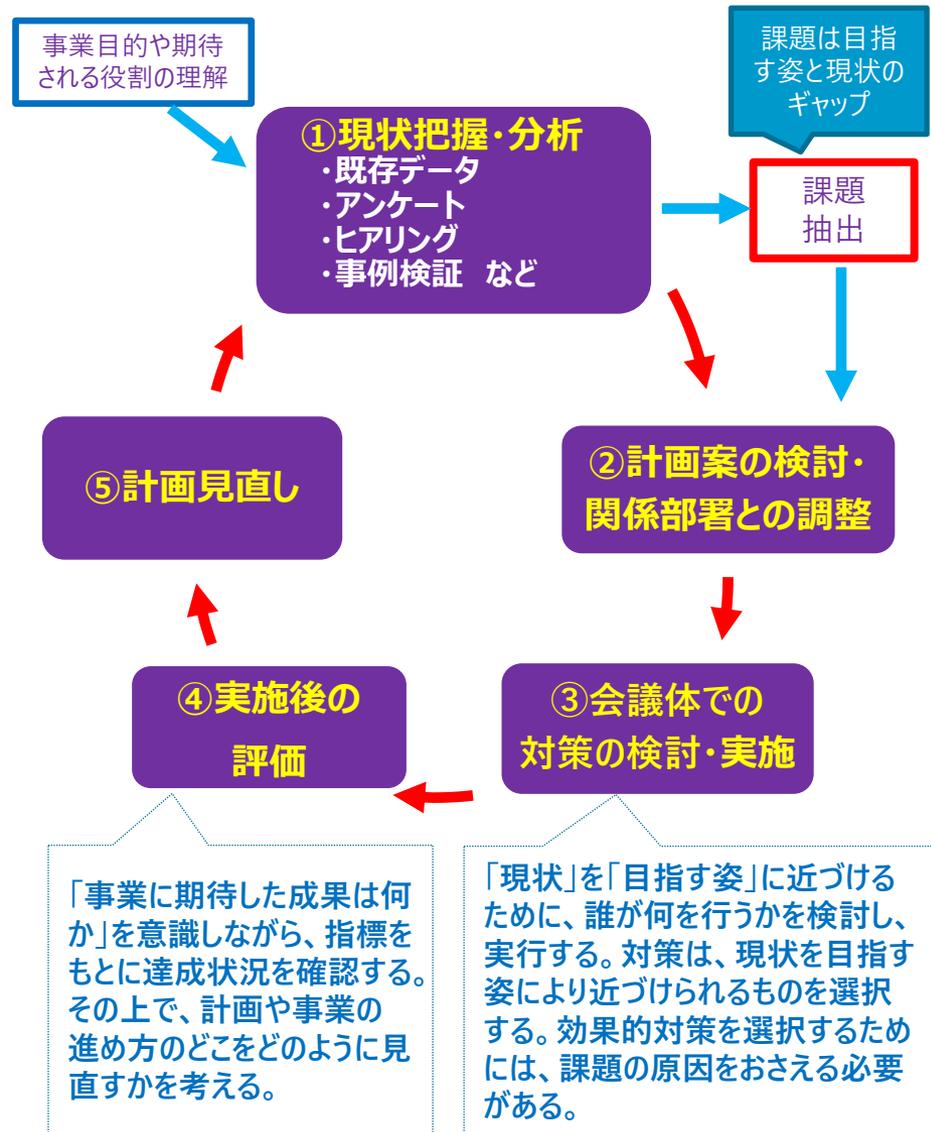
- 本人や家族の **支援ニーズを把握する** (本人ミーティング・認知症カフェなどの場を使って)
- 認知症サポーターに対し、**支援が可能な時間帯や支援内容を確認する**。
- コーディネータやチームオレンジが、**支援ニーズとニーズに対応できるサポーターをマッチングする**。

市町村の事業マネジメントの課題ととるべき対策

(ポイントは、「論理的な思考力の強化」と「ボトムアップ型会議のハンドリング力向上」)

事業マネジメントの本来の進め方

現行の事業マネジメントの課題



必要な機能	現状及び課題
1 課題の把握と設定	<ul style="list-style-type: none"> めざす姿を設定した上で、現状をおさえ、課題を把握するといった思考と方法論が身に付いていない (※できていない現状を課題と設定してしまう) 意図や仮説をもってデータ(現状)をみるといった思考が弱い。データの活用イメージが弱い など
2 効果的な事業の検討	<ul style="list-style-type: none"> 課題が具体化できていない (※課題が抽象的) 課題を生じさせている原因を分析していない 抽象的な課題に対し、いきなり施策で対応しようとしてしまう。また、その対策も市町村でできる範囲で考えてしまう など
3 多主体会議の運営	<ul style="list-style-type: none"> シナリオに沿った会議運営を展開してしまうため、多様なアイデアが集まらない (※参加者に出来るだけ発言してもらうことが重要) 多様な主体の関係者の思考や特徴、持っている力を理解できていない など
4 地域資源活用	<ul style="list-style-type: none"> 地域の組織体の存在やその機能を「知らない」 これら組織体との適切な接し方がイメージできていない
5 事業全体の円滑な展開	<ul style="list-style-type: none"> 「課題」と「対策」の整合性が取れていない 事業の立ち上げに意識が向いている。本来は、「事業を継続的に運営すること」を意識すべき。 多様な主体が持つ解決策を、課題解決に向けて総合化できていない (市町村/専門職/住民それぞれがやるべきことを整理し、協働する必要がある)

市町村の事業マネジメント力強化に向けた 当大学の取組

「事業マネジメント担当者向けセミナー」のご案内

事業マネジメント力を高めよう!

第9期 介護保険事業計画の策定に向けて

申込み期間

2022年 6月8日(水)～6月20日(月)



研修カリキュラム企画・開発/講師
埼玉県立大学大学院/研究開発センター 教授
川越 雅弘

Zoomによるオンラインセミナー

半日講習 (13:30～16:30) × 全10回

講義と演習で実践的に学ぶ >> 詳しくは中画へ

介護保険事業計画において、第6期以降、特に求められるようになってきているのが、「地域包括ケア」です。医療・介護・予防・住まい・生活支援を一体的に提供する体制づくりには、国の施策動向を把握するのはもちろん、関係機関や住民と連携・協力しながら、地域における資源の現状を把握したうえで、各種サービスの体制整備、在宅医療・介護連携、認知症施策などを推進していく——といった取組が欠かせません。

今回、こうした実務に当たる市町村の事業マネジメント担当者に向け、事業マネジメント力の強化を目指すセミナーを開催いたします。講師を務めるのは、埼玉県立大学研究開発センター教授の川越雅弘。全国の市町村・都道府県において、在宅医療・介護連携推進事業や認知症支援策、生活支援体制整備事業などの事業展開を支援してきた経験、知見を踏まえた実践的な内容です。

講義については
全10回アーカイブ配信
もご用意いたします。
※アーカイブ配信は受講決定となった方が対象となります。
※アーカイブ配信のみの申込みはできません。

カリキュラム ※ 個別日程でのお申込みはできません。

開催日	開催日	講義内容	開催日	開催日	講義内容
1 7/7	6 8/25	地域包括ケアの深化/国の施策動向	6 8/25	生活支援体制整備に関する制度改正を振り返る	
2 7/14	7 9/8	事業マネジメントの基本的考え方と進め方	7 9/8	介護保険計画に期待される役割とその変遷を振り返る	
3 7/21	8 9/22	介護予防事業に関する制度改正を振り返る	8 9/22	調査の設計とその活用方法の基本を学ぶ	
4 8/4	9 10/13	認知症施策に関する制度改正を振り返る	9 10/13	地域ケア会議に関する制度改正を振り返る	
5 8/18	10 10/27	在宅医療・介護連携推進事業に関する制度改正を振り返る	10 10/27	第9期計画の対策と評価方法を共有してみよう!	

カリキュラム 全ての講座は、13:30開始・16:30終了の予定です。

※10回分の一括申込みとなります。

月	回	開催日	時間	講義
7月	1	7/7	13:30～16:30	地域包括ケアの深化/地域共生社会の実現に向けた国の施策動向 事業マネジメント力の強化に向けた国の施策動向 現状把握方法(既存データ/アンケート)を学ぶ アンケート内容を考えてみよう!(在宅介護実態調査を例に)
	2	7/14	13:30～16:30	事業マネジメントの基本的考え方と進め方 現行の対策から、その目的を再考してみよう! 対策によって何がどうなるかを期待したか、考えてみよう! 目的から対策と評価方法を見直してみよう!
	3	7/21	13:30～16:30	介護予防事業に関する制度改正を振り返る 第6期までの対策を振り返ろう! 事業に期待したことを整理しよう! 原因から対策を見直してみよう! 第9期計画に向けた対策と評価方法を整理しよう!
8月	4	8/4	13:30～16:30	認知症施策に関する制度改正を振り返る 第6期までの対策を振り返ろう! 事業に期待したことを整理しよう! 原因から対策を見直してみよう! 第9期計画に向けた対策と評価方法を整理しよう!
	5	8/18	13:30～16:30	在宅医療・介護連携推進事業に関する制度改正を振り返る 第6期までの対策を振り返ろう! 事業に期待したことを整理しよう! 原因から対策を見直してみよう! 第9期計画に向けた対策と評価方法を整理しよう!
	6	8/25	13:30～16:30	生活支援体制整備に関する制度改正を振り返る 第6期までの対策を振り返ろう! 事業に期待したことを整理しよう! 原因から対策を見直してみよう! 第9期計画に向けた対策と評価方法を整理しよう!
9月	7	9/8	13:30～16:30	介護保険計画に期待される役割とその変遷を振り返る 見える化システムを使った要介護者の将来推計方法を学ぶ 自市町村の年齢別認知症人口の今後の推移を知ろう! 自市町村の性別年齢別認知症率とその変化を知ろう! 認知率の改善効果を実感しよう!
	8	9/22	13:30～16:30	調査の設計とその活用方法の基本を学ぶ 日常生活圏ニーズ調査の概要とその活用方法を考える 第9期計画に向けたニーズ調査の独自項目を考案しよう!
10月	9	10/13	13:30～16:30	地域ケア会議に関する制度改正を振り返る ケアマネジメントの基本的考え方を学ぶ 工程を分解し、課題を具体化してみよう! 原因から対策を考えてみよう!
	10	10/27	13:30～16:30	地域ケア会議の運営方法を学ぶ 第9期計画の対策と評価方法を共有してみよう!

主催: 埼玉県立大学 研究開発センター 地域包括ケアマネジメント支援部門 後援: 埼玉県

第3回セミナー（7/21）のスケジュール

内容	時間（目安）
■ 本日の流れ	13:30～13:32 (2分)
■【講義1】前回の振り返り	13:32～13:40 (8分)
■【情報交換】介護予防への取組を共有しよう！	13:40～14:15 (35分)
■【講義1】介護予防・重度化防止の強化に向けた国の施策動向	14:15～14:50 (35分)
■【講義2】介護予防に対するPDCAを適切に展開するために	14:50～15:05 (15分)
■【演習1】第8期の取組を、より効果のある方法に見直してみよう！	15:05～16:05 (60分)
■【講義3】要介護度の重度化に関する分析例（紹介）	16:05～16:25 (20分)
■ 次回の内容について	16:25～16:30 (5分)

5. 地域課題解決に向けた当大学の取組

地域課題解決のためのプラットフォームのイメージと課題

地域課題解決のためのプラットフォームのイメージ

- 多様な地域課題を解決するためには、**多主体が参画する協議体(プラットフォーム)が必要**。
- 同協議体を機能させるためには**事務局機能が重要**。



課題

- 【課題①】誰が主体となってプラットフォームという「場」を作っていくのか
- 【課題②】プラットフォーム(会議)の目的と運営方法をどう設定するか
 - ・地域課題を把握／共有するための場
 - ・地域課題を具体化し、対策の方向性を議論するための場
 - ・地域課題の解決に向けたメンバーを招集し、具体的な解決策を検討する場
- 【課題③】どのような形で会議を運営していくのか(会議形式? オンライン? SNS併用?)
- 【課題④】課題解決に向けたファシリテーションや事務局を誰が担うのか
- 【課題⑤】運営費用はどうするのか
- 【課題⑥】支援者ネットワーク(例:子ども食堂ネットワーク)との連携をどう図っていくのか

【事前準備】

- ① 県立大学という特徴を生かした自前の道具の準備
－セミナー・シンポジウムの枠組みの構築－

「地域包括ケアに関わる人材育成」のための手法

－集合型研修（Off-JT）と現場での直接支援（OJT）を通じた人材育成－

①集合型研修

研究開発センター シンポジウム（2016～）

【目的】国の施策の動向や方向性、
基本的考え方などを学ぶ

【2020実績】2021/2～ WEB公開
テーマ「地域のつながりの再構築を目指して」

< 講演者・シンポジスト >

- 笹子宗一
（厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課課長）
- 佐藤匡史
（日本こどもの居場所ネットワーク埼玉支部事務局／川口子ども食堂代表）
- 吉川尚彦
（埼玉県生活協同組合連合会専務理事）
- 古川泰之
（埼玉県福祉部少子政策課 副課長）
- 川越雅弘
（埼玉県立大学大学院／研究開発センター教授）

地域包括ケア推進セミナー （2018～）

【目的】地域包括ケアに関わる関係者の
実践力を高める

【2018～2019年度】

第1回（7/27開催）

「在宅医療・介護連携の展開プロセスを
学ぼう！」

第2回（11/24開催）

「ファシリテーション力を高める」

第3回（2019/2/21開催）

「自立支援のための方法論を学ぶ」

第4回（6/20開催）

「地域課題の把握方法を学ぶ」

第5回（10/2開催）

「コミュニケーション力を高めよう」

※2020年からはオンライン開催を実施。

③支援体制の整備

地域包括ケアを推進するための ネットワーク会議（2018～）

【目的】地域資源の開発を通じて実践
者への支援体制を強化する

【2018～2019年度】

第1回（2018/9/4開催）

今後の進め方に関する打合せ会議

第2回（11/30開催）

「住民の困りごと/支援ニーズを知ろう」

第3回（2019/2/15開催）

「企業・組織の活動内容を知ろう①」

第4回（5/31開催）

「企業・組織の活動内容を知ろう②」

第5回（7/30開催）

「地域課題を解決するためのプロジェクトを
みんなで考えよう」

第6回（2019/12/9開催）

「通いの場・集いの場のための空きスペース・
空き家の活用法」

第7回（2020/2/18開催）

「団地の取組と課題」



②現場での直接支援

- 介護保険事業計画策定支援（北本市：第9期計画策定業務を受託。川越市：委員としてデータ分析等を支援）
- 地域包括ケア関連業務支援（志木市／北本市：協定を締結し、事業展開ほかの支援を実施）
- 健康寿命の延伸に対する業務支援（加須市：協定を締結） など

【事前準備】

②地域課題の解決に必要な要素と展開手順の検討

多主体連携の目的（ゴール）とその展開手順のイメージ

目指すこと（ゴール）

地域課題が多様化、複合化するなか、「多様な主体を交えながら、地域レベルで課題解決を図っていく力（＝地域課題解決力）」の強化が現在求められている。

これを実現するためには、地域のニーズを知っている人、解決手段を持っている多様な主体の交流を促進することを通じて、

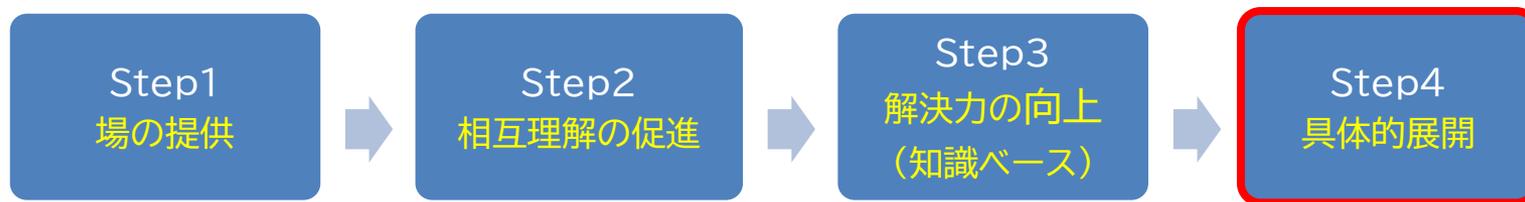
- ①**地域課題解決力を高める**（知識向上、ノウハウ獲得など）とともに、②**具体的な課題解決に向けた実際の行動・活動（＝プロジェクト）につなげ、その結果として、地域の課題解決につなげていく。**



ゴール達成に向けての展開手順

1. NPO等の支援者が継続的に活動できる状況にあること（ベースライン）
2. 住民が抱える課題を解決をしたい人、地域に何等かの貢献をしたいと思っている人／解決手段を持っている人が交流できる「場」を用意すること（⇒**場の提供**）
3. 現場レベルで困っていること（地域ニーズ）を解決手段を有する側が知ること。逆に、どんな解決手段を有しているかを、支援者側が知ること（⇒**相互理解の促進**）
4. 課題解決に必要な知識やノウハウ、ネットワーク力を高めること（⇒**解決力の向上**）
5. 課題に関心を持つ関係者間でニーズや現状を共有し、解決手段を考えていくこと。また、具体的に展開していくこと（⇒**プロジェクトの立上げと推進。地域単位での展開**）

ゴール達成に向けた展開手順のイメージ



NPO等の支援者が継続的に活動できる状況にあること（ベースライン）

地域課題解決に向けたネットワークの構築と機能化

【取組 1】

セミナーという場を通じて、

「支援者の活動状況」「支援を要する人の現状と課題」を
把握する

※1：2021年度は、第2・4金曜の18～18時50分に、講演会を開催。

※2：講演会終了後、講演者と一部参加者が残って、質疑応答と意見交換を実施。

地域包括ケア推進セミナーを活用した支援ニーズや支援者活動の実態把握

日付	タイトル	講演者	人数
4/9	フードバンク埼玉の活動報告	フードバンク埼玉_永田信雄氏	63
	本業を通じた地域貢献の取り組みについて	(株)イトーヨーカドー 経営企画室_強矢健太郎氏	
4/23	社会資源の有効活用	埼玉県環境部 資源循環推進課_江原宏和氏	63
	大宮アルディージャ版 みんなのシン・みつプロジェクト	大宮アルディージャ事業本部 社会連携担当_安田光志氏	
5/14	子どもたちの笑顔あふれる地域作り：学校応援団と地域の取組み	市立松山第2小学校学校応援コーディネーター_木村貴世氏	48
	セントラルスポーツの介護予防・フレイル予防サポート	セントラルスポーツ(株)健康サポート部_大東俊彦氏	
5/28	社会はひとつずつ変えることができる：フードパントリーを事例として	筑波大附属坂戸高校_菱沼幸歩氏	66
	デニーズで、認知症本人ミーティング	(株)セブン&アイ・フードシステムズ南越谷事務所_柴崎達也氏	
6/11	異業種・多職種の事業者が協働し、地域貢献活動⇔事業活動になる関係性づくり	医療・福祉・環境経営支援機構_櫻井 誠氏	66
	社会資源との協働による地域コミュニティづくり「ウェルカフェ」の展開	ウエルシア薬局(株)_宮崎進一氏	
6/25	訪問と学習支援で子どもたちを支える	彩の国子ども・若者支援ネットワーク_白鳥勲氏	62
	介護予防×ICT	(株)ジーシーシースタッフ_林 千秋氏	
7/9	障がいのある人ない人まぜこぜに：クッキーでつくるおいしい社会	NPO法人クッキープロジェクト_若尾明子氏	58
	民間企業による社会課題解決型事業の事例	(株)NTTデータ経営研究所_大野孝史氏	
7/30	コロナ禍の食育とその意味	NPO法人食育研究会MoguMogu_松成容子氏	47
	健康感から健康観へ～まちの皆さまの健康な毎日に寄り添う薬局を目指す～	薬樹R&D(株)_吉澤隆治氏	
8/27	芝園団地における多文化共生のまちづくり：地域と学生の連携による取組み	芝園かけはしプロジェクト_圓山王国氏	54
	支える人と支えられる人が入れ替わりながら支え合える社会を目指して	生活クラブ生活協同組合 埼玉本部_穴澤 修氏	
9/10	戸田市のワクチン接種とSDG s	戸田副市長_内田貴之氏	51
	ドコモのCSR活動および高齢者サポートの取組みについて	(株)ドコモCS 埼玉支店_石原崇之氏	

【取組 2】

セミナーを通じて、民間企業等の活動状況・機能・資源を把握する
(例：デニーズ「認知症本人ミーティング」)

「認知症本人ミーティング」を開催するまで

■開催にあたりデニーズ二番町店従業員の事前教育を実施



■8月13日（木）

デニーズ二番町店従業員3名に
「認知症サポーター研修」を実施
(開催時間帯の平日14時～18時
に勤務の多いメンバーの選定)



■ 研修終了後 3名の感想

「意外と知らないことが多かった、たいへん勉強になった」

「ロールプレイで学んだことが今後の仕事の中で役に立つと思う」

「認知症の知識をきちんと学べた、参加して良かった」

「認知症本人ミーティング」を開催して

■千代田区「認知症本人ミーティング」デニーズ二番町店 初開催

開催日： 9月9日（水）15：00～16：00

第4回「実桜の会」（みおのかい）

参加人数： ご本人： 4名+2名オンライン参加

ご家族： 3名

スタッフ： 千代田区 7名+品川区・世田谷区 3名

合計 19名



【受付時】

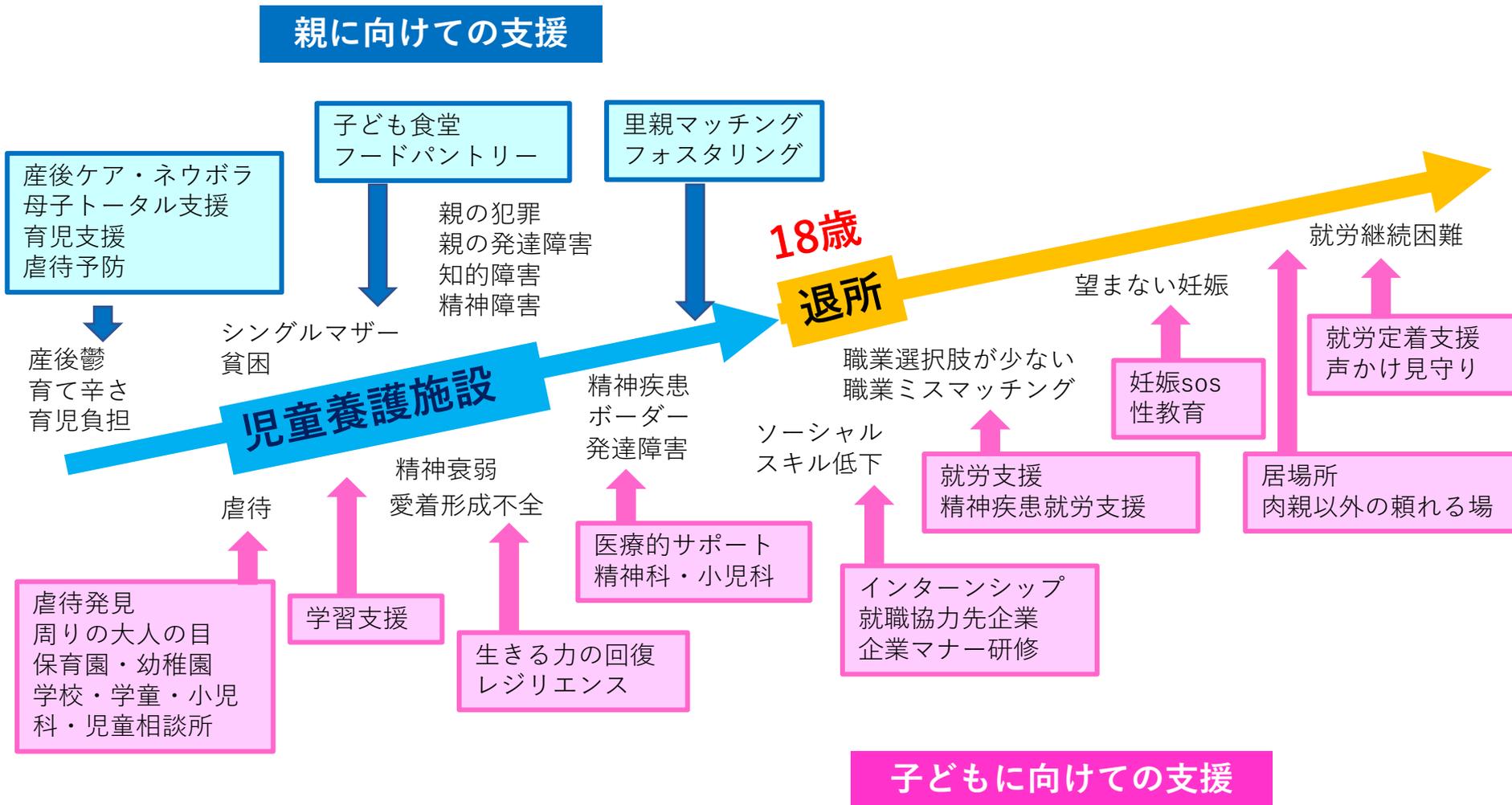
- ・アルコール消毒・検温
- ・個人の連絡先をうかがう

【取組 3】

支援者同士、支援者と民間企業等をつなぐ

子ども・子育て家庭に必要な支援と現状

(様々な年齢の子ども、様々な課題に対し、様々なNPO等が活躍しているが、包括的・継続的支援を実現するためには、関係者同士がつながる必要がある)



「子どもの最善の利益とはなんだろう？」

支援者がお互いの強みを知り、地域で切れ目ない支えを考えてみる集い

今回、母子支援～子育て支援、社会的養護につながった若者のアフターケア事業まで各領域で活動をしている団体が集う場を企画しました。

今ほど、コロナ禍を経て、地域社会から孤立し、支援につながるが難しいまま虐待やネグレクトなど、不適切な養育に至ってしまった家庭へのまなざしを持つ必要に迫られているときはないと考えます。

「子どもの最善の利益とは何か」、そのための地域資源による切れ目のないサポートができないかを皆様と考えていきたい。

諸団体・諸機関の連携のきっかけづくりの場とできれば幸いです。

日時：第1回 1月29日(土) 13:00～16:00
第2回 4月30日(土) 13:00～16:00

形式：オンライン シンポジウム形式 ZOOMにて開催

対象：子ども・療育者を支援している団体、行政、
社協、その他関係者
地域で子どもを支えたいと思っている方

内容：埼玉県内に各領域で支援活動をしている
団体の活動紹介、情報交換・交流会

主催：埼玉県立大学研究開発センター

共催：一般社団法人コンパスナビ、NPO 法人リマインド

後援：埼玉県



活動紹介団体

第1回 1月29日(土)
13:00～16:00

一般社団法人 コンパスナビ
愛泉こども家庭センター
公益社団法人埼玉県社会福祉士会
みなみこども食堂ボランティア
地域若者サポートステーション深谷
さいたま市子ども家庭総合センターあいばれっと
法テラス埼玉
NHK さいたま放送局
多様な学びプロジェクト
こどもの心のケアハウス麓山学園
埼玉県こども安全課

第2回 4月30日(土)
13:00～16:00

NPO 法人リマインド
ハビママメーカープロジェクト
彩の国子ども・若者支援ネットワークアスポート
一般社団法人あんしん母と子の産婦人科連絡協議会
NPO 法人さいまま
NPO 法人ふるすあるは
ヘルシーカフェのら
一般社団法人 Master Piece
NPO 法人さいたまユースサポートネット
NPO 法人ピッコラーレ
公益社団法人やどかりの星

【参加費】
無料

お申込みはフォームメーカーにて登録をお願いいたします。

<https://business.form-mailer.jp/fms/22f24c8a159509>

【お問合せ先】 埼玉県立大学研究開発センター 電話 048-973-4363



←こちらから

生活支援コーディネーターと民間企業がつながるよう支援する (県社協の生活支援コーディネーター向け研修会の場を活用する)

主な経過

1. 地域包括ケア推進セミナーへの県社協の参加
 - 月2回開催していたセミナーに、県社協の関係者が複数回参加した。
2. 県社協主催のSC向け研修会の講師依頼がくる
 - R3～R4年度のSC向け研修会で講師を依頼される。
 - 研修の内容の詳細検討にも参加し、「デニーズの本人ミーティングの紹介」を提案し、採用される。
3. 研修会でデニーズの講演が実現する
 - R4年度市町村担当職員及び生活支援コーディネーター合同研修会にて、デニーズの取組が報告される。



- 参加者の一部から、デニーズに問合せが来て、具体的な連携の相談段階に入っている。



- 今後、連携状況に関する情報をもらって、その手順を整理していく予定。

R4年度市町村担当職員および生活支援コーディネーター合同研修プログラム

時間	内容
12:40～ 13:20	入室 (13:00～希望者のみ Zoom 体験会実施)
13:30	オリエンテーション
13:40	【講義】『地域課題を解決するために「思考」と「手法」について』 埼玉県立大学大学院／研究開発センター 教授 川越 雅弘 氏
14:10	【グループワーク】 「高齢者の社会参加を促すためにどうしたらいいかを考える」 ○高齢者の社会参加が活発になるのではという“ アイデア ”を考える ○“ アイデア ”を どうすれば実現できる か。また実現するために 必要なコトやモノ は何か
15:05	【休憩】
15:15	【実践報告】 (1)『デニーズで認知症ミーティング』 株式会社セブン&アイ・フードシステムズ サステナビリティ推進室 柴崎 達也氏 (2)『きたもとごちゃまぜの会について』 社会福祉法人北本市社会福祉協議会 主査 (生活支援コーディネーター) 大塚 竜自氏
15:55	【質疑応答・まとめ】
16:10	【事務連絡・閉会】

個別支援（マッチング）の実施

（学習支援「アスポート」とアルファクラブ武蔵野のマッチング）

アルファクラブ武蔵野の取組と資源

葬儀場を活用したフードパントリーの開催



送迎バスを保有



大学の関与

- 両者との打合せ用のZoom会議をセット。
- その後は直接やり取りをしてもらう形。

【アスポート側の支援ニーズ】

- 小学生の送迎用のバスを無料で借りたい。
特に、県内北部の市町村で。
- 子どもをどこかに連れて行ってあげたい。

×

【アルファクラブ武蔵野側の事情】

- バスは定期的に動かしたい。
- 子ども支援はウェルカム。

||

小学生を対象に、マイクロバスを借りて、花見を実施。

【取組4】

支援者に関するデータベースの整備

支援者に関するデータベース 構築のための仕掛け



NPO法人 ReMind (さいたま市)

支援の対象

- 子ども 青年 障がい児・障がい者 妊婦 親
 その他()

活動理念・目指していること

障がいがあるなしに関わらず みんなちがってみんないい 包含社会を創りたい

現在の活動内容・提供可能な内容

- 生活支援(衣・食・住) 学習支援 就労支援 医療支援 居場所支援
 その他(相談) **親だけでなく社会で子どもを育てたい!**

【主な活動内容・PRポイント・団体の運営体制】

リハビリテーション精神を大切に医療と地域を繋ぐ活動をしています
気軽に心身の相談が医療職にきる場をリアル・オンラインで実施

- まちの保健室(産後ママ・育児相談・高齢者の居場所)
出張「まちの保健室」も行っているので、お気軽にお声かけください
- オンライン健康居酒屋(毎月第3土曜日21時~オンライン開催)
- Youtubeチャンネルで発信(バリアフリー社会推進)
<https://www.youtube.com/channel/UC8k-IyGWKrQ1bTJ3f64dHJQ>

子ども・支援者、障害者、高齢者、働く人を対象に、理学療法士・医師
作業療法士・言語聴覚士・看護師・介護福祉士ほか様々な専門職や一般職
の方がメンバーとなりチームで社会課題解決に向けて活動しています。
一緒に活動してくれる正会員・応援団になってくれる賛助会員、募集中!



当事者のニーズにもっと応えたいこと／応えられなくて困っていること

- ・産後うつをはじめ子どもの発達障害、医療的ケア児も含め孤独に育児をしている方が増えており問い合わせが多い。
共感してもらいながら 育児相談できる場を常設したいが対応できていない。
- ・産後ママの身体のケアが不足しており、体力低下、腰痛、尿失禁などの症状がみられる方が少なくない。育児中で自分のことが後回しになってしまっているので子連れで心身のケア出来る場を作っていきたい。

他の活動団体の方や地域住民の方に支援して欲しいこと

- ・病院にかかる前に気軽に心身の相談が出来る「まちの保健室」活用促進していきたい。ReMind会員には様々な医療福祉専門職がいるので、様々なテーマでコラボ開催などが出来たら嬉しいです。(テーマ:産後ケア・愛着形成・更年期・腰痛など)
- ・さいたま市で子どもと一緒に体に良いものを食べながら育児相談できる場所を作りたいと思っています。場所の提供、シェア空き家、空きスペースなどがありましたら、ぜひご連絡お願いいたします。

連絡先

〒338-0001 埼玉県さいたま市中央区上落合2-3-2
新都心ビジネスプラザ COCOオフィス内
(担当) 代表理事 河合麻美
TEL/E-mail: remind.pos@gmail.com
HP: <https://nporemind.org/>
FB: <https://www.facebook.com/nporemind>



【取組 5】

市町村単位での展開と人材育成

—展開を、伴走しながら支援し、徐々に移管していく—

市町村単位での地域資源の把握・共有の促進（北本市）

主な経過

- フードバンク埼玉との連携打合せ(2020/12/14)**
 - 北本市社協は、市内の子ども食堂を増やすため、子ども食堂の担い手研修などを実施。子ども食堂支援のため、食材提供も実施していた。
 - フードバンク埼玉のエリア拠点として活動しても良いとの話があり、具体的連携に関して打合せを実施。
- 大学主催のセミナー・NW会議への参加の打診**
 - 社協担当者にセミナー等を案内。2-3回参加される。
 - その後、エリアNW会議の開催を打診し、了解される。
- エリアNW会議の開催に関する打合せ(2021/2/19)**
 - エリアNW会議の実施方法や時期について意見交換を実施。その中で、コアメンバーの選定を打診した。
- 第1回コアメンバー会議(2021.3.24)**
 - コアメンバーの自己紹介
 - 経緯説明 & NW会議の目的を共有
- 第2回コアメンバー会議(2021.4.14)**
 - NW会議の内容／方法／時期に関する打合せ
- 第3回コアメンバー会議(2021.5.28)**
 - 講演者／会議名称／プログラムに関する打合せ
 - 開催日を7/10に確定。7月の「社協だより」に掲載
- 第4回コアメンバー会議(2021.6.29)**
 - 講演者を確定(5名)
 - 参加希望者の現状報告(30名程度が応募)
 - 当日の運営方法の最終確認を実施
- 第1回「きたもとごちゃまぜの会」を開催(2021.7.10)**
 - 参加者数は約50名

第1回 きたもとごちゃまぜの会

～地域のつながりづくりに向けて～

令和3年7月10日(土) 10:00～12:00 ZOOM開催

本日のプログラム

時間	内容
9:45～10:00	入室開始
10:00～10:05	オリエンテーション
10:05～10:10	コアメンバー紹介 1) NPO法人ワーカーズコレクティブ てとて 代表理事 邨山真理 2) コープみらい北本介護センター 主任介護支援専門員 吉岡敬太 3) 定期巡回訪問介護看護ゆうゆうケア 管理者 清宮尚也 4) 理学療法士 関良平 5) 社会福祉法人北本市社会福祉協議会 地域福祉グループ 丸山龍朗・大塚竜自(第1層生活支援コーディネーター)
10:10～10:40	活動者の発表① 1) 「笑顔」でいられる人生を「夢」をかなえる手伝いを」 発表者：合同会社 笑夢(えむ) 代表社員 清宮尚也 2) 「空き家再生プロジェクト×精神障がい」 発表者：NPO法人 北本福祉の会 かがやきの郷 星夏美 3) 「健康的な美味しい食事」 宅配すまいる北本店 店長 江本正彦
10:40～10:45	休憩
10:45～10:55	質問タイム
10:55～11:15	活動者の発表② 4) 「暮らしの編集室について」 発表者：合同会社 暮らしの編集室 岡野高志 5) 「コープみらいの事業と活動」 発表者：生活協同組合コープみらい 埼玉県本部 参加とネットワーク推進部 企画・渉外課 渉外課長 岡直政
11:15～11:25	質問タイム
11:25～11:45	参加者自己紹介
11:45～11:55	総括 ゲストコメンテーター 埼玉県立大学教授 川越雅弘
11:55～12:00	事務連絡・閉会

第4回ごちゃまぜの会 (北本市)

第4回

「何かやってみたい人」が出会い・つながる場

きたもと ごちゃまぜの会

～地域のつながりづくりに向けて～

7/23(土) 10時～12時
ZOOM開催 無料



申込フォーム

内容

北本市の魅力的な団体・活動者
13人のプレゼンテーション (1人5分程度)

プレゼンター

- ・ コーヒーとタイヤキのカラク
- ・ 福祉と暮らしラボ
- ・ (一社) コスモス成年後見サポートセンター
- ・ 北本駅西口郵便局
- ・ 森と子育てのつどい (モリトコ)
- ・ 社会福祉法人 一粒
- ・ 地域共生プラザ びおもす
- ・ 明治安田生命 大宮支社 北本営業所
- ・ 北本ハイワールド
- ・ 寿命院
- ・ 在宅生活支援パートナー協会
- ・ きいろの窓口
- ・ B.Jバスケット
- ・ パブリシク株式会社
- ・ グループホームあおいとり

ゲストコメンテーター
埼玉県立大学教授 川越雅弘氏

地域資源の把握とつながりの促進（北本市）

きたもと、つながるプロジェクト ～地域のお宝探し～

人生100年時代。健康寿命を伸ばし、いつまでも健康であるためには、人との「つながり」が大切です。

つながりとは、「人間関係」、「社会性」、「地域の支え合い」などのことです。高齢になり運動機能が低下するから社会性が低下するのではなく、「社会性が低下するから、運動機能も低下する」ことが分かってきました。



野菜作りで地域貢献！



シェアキッチンを活用した居場所づくり



介護予防でつながりづくり！



運転ボランティアによる移動支援！



移動スーパーが地域の居場所に！

社会とのつながりを失うことが始まり
栄養・運動・社会参加の3本柱でスタート！フレイル・ドミノ



住み慣れた地域、自宅ですべて自分らしく暮らしていくためには、いつまでも元気でいられるフレイル予防(介護予防)が必要であり、社会性を応援、支援することが必要になります。

そして、そのためには社会参加の場を創ること、具体的には「居場所、集いの場、支え合い」などの「暮らしがら」を整えることです。

生活支援コーディネーターは、地域の活動(サロン、体操教室、ラジオ体操、老人会活動、趣味活動、助け合い・支え合い活動、移動スーパーなど)を「地域のお宝」として、活動の発見、支援、充実、創出を行うプロジェクトを実施します。

北本市地域包括ケアガイドマップ
(お宝マップ) 作成しました！

※随時更新中



お宝マップQRコード

サロン、体操教室、助け合い・支え合い活動、移動スーパーなど、多様な地域のお宝を掲載しています。

<https://sites.google.com/view/kitamoto-otakaramap>

何かやりたい人が出会い・つながる場

きたもと ごちゃまぜの会
FACEBOOKグループ
始めました！！



QRコードを読み込んでご参加ください！

きたもとごちゃまぜの会とは？

地域共生に向けた取り組みを行う福祉医療関係者及びその考えに賛同する個人や団体を幅広く集めたネットワーク会議を開催することにより、今後の地域づくりの連携を構築することを目的とします。

そして、「地域みんなが支え合い、ひとりひとりが生きがいを持った人生を送り、楽しみながら地域をともに作っていくことのできる社会」を目指しています。

つながりづくり

地域共生社会

やりがい・いきがい・楽しみ

異業種連携

仲間づくり

人生100年時代

まちづくり

SDGs

多世代連携

gochamaze
kitamoto

持続可能な社会

地域課題解決

子ども達の未来

福祉医療連携

なにかやりたい人が出会いつながる場

これまでの取組から見えてきたこと

これまでの取組で見えてきたこと

NPO等の支援者／支援ニーズの現状と支援策について

ア) 支援者について

- 住民の困りごとに応えたいという思いからスタートした人も多く、組織としては一般的に脆弱である。そのため、ヒト・モノ・カネ・活動拠点の確保などに困っている人や組織は多い。
- 同じ取組を行っている支援者同士のネットワークは存在するが、他の運営者と協働する動きはあまり見られない（例：学習支援チームと食支援チームのコラボなど）。
- 介護保険サービスは介護保険事業計画に沿って整備され、住民にも認知されているが、互助を担っている支援者は、その存在も機能も十分には知られていない。

イ) 支援ニーズについて

- 年齢や状況によって支援ニーズは異なる。そのため、継続的支援が課題となっている。
- 学習支援チームが、支援ニーズの拡がりを受けて、食支援なども自前で行っているが、スタッフ・ノウハウ不足などで、ニーズに対応しきれない状況となっている。



- 子どもの支援では、「包括性」だけでなく、「継続性」の視点を入れた支援が必要である。
- そのため、支援者同士のネットワーク化と具体的なコラボを促す取組が今後必要である。

支援の展開方法について

- セミナーやシンポジウムを活用した方法は、①支援ニーズや支援者の活動実態を把握する手段として実践的かつ有用であること、②支援者支援の手がかりともなることがわかった。

6. マネジメント力の強化に向けた私見

マネジメントを適切に展開するためには

【ケース／事業マネジメントがうまく展開できない人／周辺環境の特徴とは】

- 目的ではなく、手段から物事を考える思考のくせが身に付いている。
- 現在出来ていないことを課題と捉え、対症療法的にアプローチする。
- 目的意識が弱いため、専門職の手段の議論に負けてしまう（本人を中心とした支援が展開できない）。
- 自治体職員は、国から示された1つ1つの施策（例：認知症サポーターの養成）をどう実現するか意識が向き、サポーター養成後の活用まで意識が向かない。
- 課題の解決を、自分が持っている手法で解決しようと考えてしまう（他の人の解決手段を知らない）
- 会議を上手く展開するためのファシリテーション力が弱い。自治体職員は、シナリオがない会議を上手く回せない。
- 日常業務のなかで、自身のマネジメントの思考や手法の問題点を指摘、是正される機会が少ない。
- 目指すべきロールモデルがない。



- 都道府県単位で、ロールモデルとなるトップのマネジメント人材を養成するところから始めてはどうか（数名程度から）。
- Zoom等の普及で、広域支援が可能な状況になっている。各都道府県のトップマネジメント人材を、コアとなる全国ベースのマネジメント人材で支援する仕組みも必要。